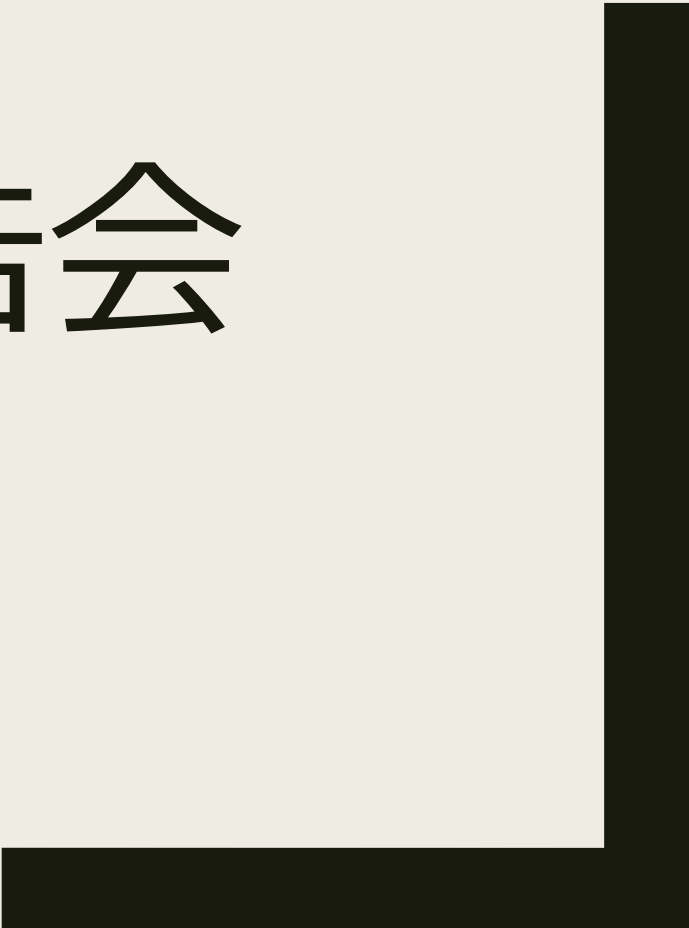




福島訪問報告会

2023.2.28(火)～3.3(金)



参加理由

- 気候変動をはじめとする環境問題に興味があった。しかし、原発、震災のことは分からないことが多い。
- 亡き祖父母が広島、長崎出身で被爆を経験。原発とはどういったものなのか、自分自身の考えを深めたい。



2月28日

⑥双葉駅

双葉駅西側地区公営住宅プロジェクト

⑤とみおかアーカイブミュージアム



④ふたばいんぷお



②道の駅 なみえ



①浪江駅



③富岡漁港
富岡駅

双葉駅



双葉駅西側地区 公営住宅プロジェクト



感じたこと

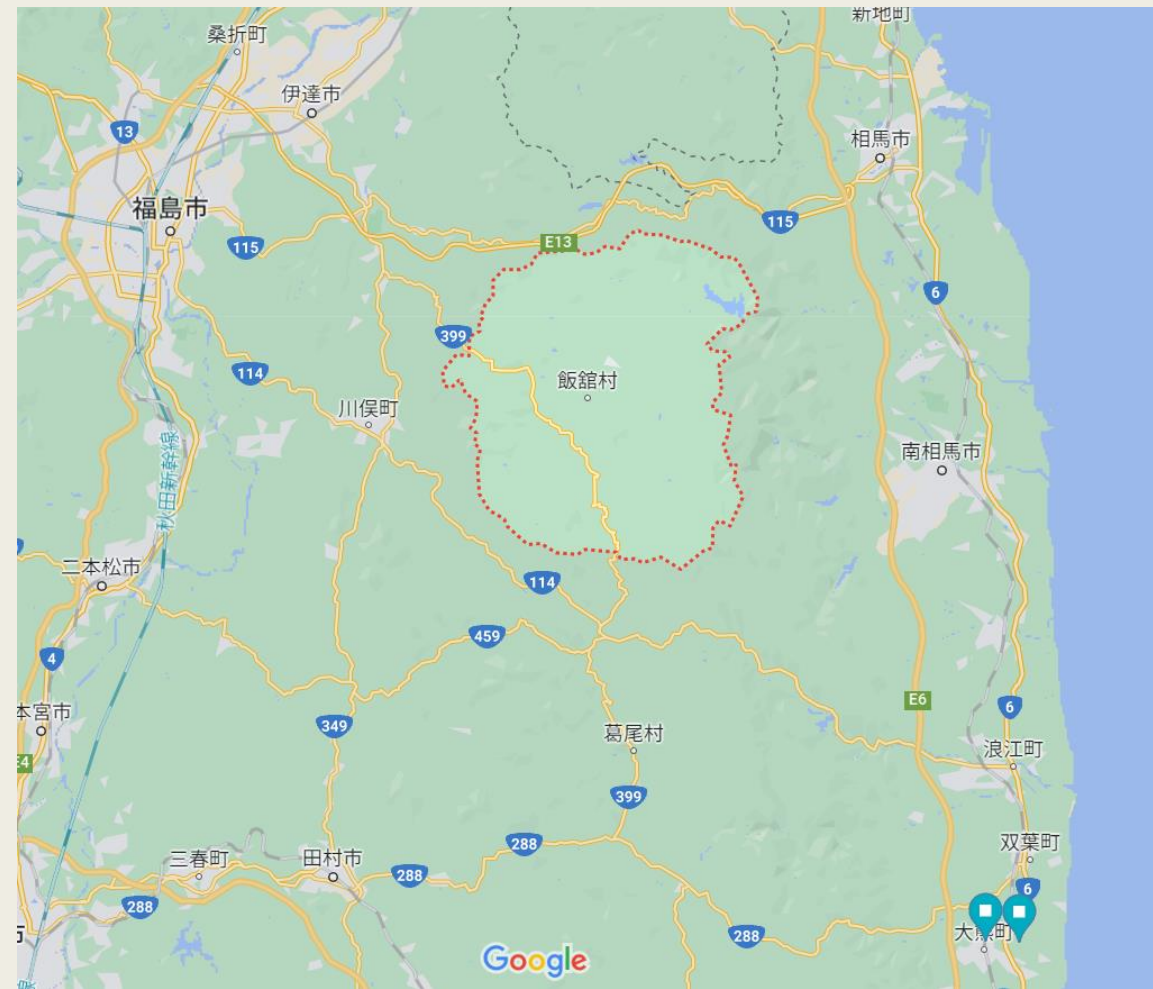
～2月28日～

- ひと気のなさ、廃墟となった家屋や建造物。
- 復興とは何か。
- 実際来てみないとわからない現状。
- 知り得る情報と現実のギャップ。
- 線量計の数値が振り切れる。
放射能の恐怖。



飯舘村

- 福島県相馬郡 浜通り
- 人口 4,781人(令和5年2月28日時点)
- 世帯数 1,805世帯
- 福島第一原子力発電所から北西に約50km。近いところでは30km。



2月28日 ～渡邊とみ子さん～

- ・ 飯舘村で農家民泊を営む
- ・ 「いいたて雪っ娘」というカボチャの生産、加工、販売
- ・ SNSでの発信
- ・ 村や家族、農作物に対する気持ち



3月1日　～飯舘村　伊藤延由さん～

- 道の駅　なみえ
- 山津見神社
- 帰還困難区域通行止め地点
- 伊藤さん宅訪問
- お食事処　ラ　カセエ
- 小中一貫校傍訪問
- 飯舘村役場



伊藤さんのお話

- 福島 原発の安全神話、原発で潤った町
- 福島と日本の基準値の違い
- 飯舘村は全体が放射線源
- きのこと、山菜の放射線量
- 除染 表土5cmにセシウム137の98%がとどまる

⇔野菜の栄養分のもととなる作土は1cmに対して10年かかる

- 次世代の影響
- 帰らない、帰れない70%の人を含めた復興
- 情報があふれる時代だからこそ**両論併記**で考える



福島大学生との交流

～3月2日～

《再稼働について》

- 今のままでは反対。再稼働はいいが、徹底的に解決策を。
- 対策さえしてくれば、働き口にもなるため、再稼働も悪い面だけではない。
- 賛成だが、放射性廃棄物の処理動向にもっと目を向けるべき。
- 火力などでは補えないが、今の段階では反対。
- 消極的賛成。エネルギー問題を解決するうえでは自分レベルではどうにもならないのではないのでは。反対意見に対して、ではどうすればいいのか。

→安全面をみると反対、現実をみると賛成せざる負えない。

福島に住んでいるからという関係性は薄いのか。

住んでいて現実を見ているからこそ、賛成意見が多く出てくる。

まとめ

- 実際に訪れることでわかることが多い。
- 情報があるれるなか、正しい正しくないよりまずは両方の意見に耳を傾ける。
→両論併記
- リスクや困難に立ち向かう方。その思いを継承していく、受け止めて自分なりの考えをもつこと。
- これまで間接的に見聞きしていた復興と実際の現場のギャップ。
- 復興とは何か。見える形ではない別のもの。
- 同世代間での対話。